

教科 社会(歴史的分野) 学年 第1、2、3学年

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1章 1節 私たちと歴史	1	○小学校で学習した歴史上の人物や文化財について振り返り、時代の特色や歴史の移り変わりへの興味・関心を高める。 ○時代区分の方法や年代の表し方について理解し、年表の見方・表し方を身に付ける。	○年代の表し方や時代区分の意味や意義についての基本的な内容を理解している。 ○資料を読み取り、歴史に関わる情報を整理したり、年表などにまとめるなどの技能を身に付けている。	○時期や年代、推移、現在までのつながりなどに着目して、小学校での学習を踏まえながら、時代区分との関わりなどについて考察し表現している。	○歴史学習に向けて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
第1章 2節 身近な地域の歴史	1	○身近な地域の歴史について、情報収集や、情報の整理、表現したりするなど、調べ学習の基礎を身に付ける。 ○様々な資料や文化財を活用して、地域の歴史を多面的・多角的にとらえ、表現する。	○自分たちが生活する地域や受け継がれてきた伝統や文化に着目しながら、具体的な事柄との関わりの中で、地域の歴史について調べたり、収集した情報を年表などにまとめるなどの技能を身に付けている。	○比較や関連、時代的背景や地域的な環境、歴史と自分たちとのつながりなどに着目して、地域に残る様々な文化財や資料を活用して、身近な地域の歴史的特徴を多面的・多角的に考察し、表現している。	○自分たちが生活する地域や受け継がれてきた伝統や文化に着目しながら、身近な地域の歴史について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
第2章 1節 人類の出現と文明のおこり	5	○人類の出現や、世界各地で古代文明、宗教がおこったことを理解する。 ○それぞれの古代文明には、農耕や牧畜の始まり、文字の使用、国家がおこりなど、共通する特色があることを理解する。	○地図や写真などから、世界の古代文明の特色に関する情報を調べまとめ、共通点や違う点を理解している。	○古代文明や宗教がおこった場所や環境などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、世界の古代文明の特色や宗教のおこりについて多面的・多角的に考察し、表現している。	○人類が出現し、やがて世界各地で古代文明がおこったことについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
第2章 2節 日本の成り立ちと倭の王権	3	○農耕の広まりによる人々の生活の変化に気づき、国家が形成されていく過程を東アジアとの関わりを通して理解する。	○日本列島における農耕の広まりによる生活の変化や、当時の人々の信仰、大和政権による統一の様子と東アジアとの関わりなどに着目して、東アジアの文明の影響を受けながら日本で国家が形成されていったことを理解している。	○農耕の広まりや生産技術の発展などに着目して、農耕の広まりによる人々の生活の変化や、大和政権による統一と東アジアとの関わりなどについて、多面的・多角的に考察し、表現している。	○よりよい社会の実現の視点から、日本列島での人々の生活の変化と、国家が形成されていく過程について、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
第2章 3節 大帝国の出現と律令国家の形成	3	○7～8世紀に、東西に大帝国が成立し、シルクロードを通じた国際交流が盛んになったことを理解する。 ○日本では、大陸の文物や制度を取り入れながら国家のしくみが整えられたことを理解する。	○資料から歴史に関する様々な情報を調べまとめ、東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことを理解している。	○東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などの事象を相互に関連付けるなどして、東アジアの動きが日本の政治に与えた影響などについて、多面的・多角的に考察し、表現している。	○よりよい社会の実現の視点から、7～8世紀の世界の動きや律令国家が形成されていく過程について、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
第2章 4節 貴族社会の発展	4	○天皇や貴族の政治の展開と、古代国家が発展していったことを理解する。 ○国際式豊かな文化が栄え、後に文化の国風化が進んだことを理解する。	○仏教の伝来とその影響、仮名文字の成立などを基に、さまざまな資料から歴史に関する様々な情報を調べまとめ、国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解している。	○東アジアとの交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、都の貴族や地方の農民の暮らし、撰閣政治と天平・国風文化の特色について、多面的・多角的に考察し、表現している。	○天皇や貴族の政治の展開と、古代国家が発展し、国際色豊かな文化から日本独自の文化が生み出されたことについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
第3章 1節 武家社会の始まり	5	○武士の台頭と鎌倉幕府が成立し、その支配がしだいに全国に広まったことを理解する。 ○武士や民衆の活力を背景に生まれた新たな社会や文化の特色について考える。	○鎌倉幕府の成立、鎌倉時代の文化や仏教などを基に、さまざまな資料から歴史に関する様々な情報を調べまとめ、武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立したことを理解している。	○武士が政治に進出していく流れや、東アジアにおける交流などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、武家政治の特徴について多面的・多角的に考察し、表現している。	○武士の台頭と鎌倉幕府が成立し、その支配が全国に広まるとともに、武士や民衆の活力を背景に生まれた社会や文化について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
第3章 2節 ユーラシアの動きと武家社会の変化	5	○13世紀ごろに、ユーラシア大陸に広がるモンゴル帝国(元)が成立し、東西の貿易や文化交流が盛んになったことを理解する。 ○南北朝の争乱から室町幕府の成立について、東アジア世界との密接な関わりとともに理解する。	○元軍の襲来や、南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などを基に、さまざまな資料から歴史に関する様々な情報を調べまとめ、元軍の襲来がユーラシアの変化の中で起こったことや、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解している。	○モンゴル帝国(元)の拡大の様子や、武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、この時代の武家政治や、東アジアの動きが国内の政治や社会に与えた影響について多面的・多角的に考察し、表現している。	○武家政治の変化と東アジアの動きについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
第3章 3節 結びつく民衆と下剋上の社会	3	○応仁の乱後の社会的な変動や戦国の動乱などから、武家政治の展開について理解する。 ○農業などの諸産業が発達し、畿内を中心とした都市や農村に自治的なしくみが成立したことを理解するとともに、室町文化には禅宗の影響や現在との結びつきがみられることに気づく。	○諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、武士や民衆などの多様な文化の形成、応仁の乱後の社会的な変動などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を調べまとめ、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解している。	○諸産業の発達に着目して、事象を相互に関連付けるなどして、民衆の成長が社会に与えた影響について多面的・多角的に考察し、表現している。	○民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

<p>第4章 1節 結びつく世界との出会い</p>	<p>4</p>	<p>○14～16世紀のヨーロッパでは、ヨーロッパ諸国が貿易や布教などを目的に世界各地へ進出していったことを理解する。 ○ヨーロッパ人が日本に來航した背景や目的を理解し、それが日本の社会に及ぼした影響について考える。</p>	<p>○ヨーロッパ人來航の背景とその影響などを基に、さまざまな資料から歴史に関する様々な情報について調べてまとめ、それが日本の社会に及ぼした影響について理解している。</p>	<p>○交易の広がりとその影響などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、豊かな交易が行われていたアジアにヨーロッパ諸国が進出する中で、世界の交易の空間的な広がりが生み出され、それを背景として日本とヨーロッパ諸国の接触がおこったことや、日本の政治や文化に与えた影響などについて多面的・多角的に考察し、表現している。</p>	<p>○中世から近世への過渡期にある日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>
<p>第4章 2節 天下統一への歩み</p>	<p>3</p>	<p>○織田信長・豊臣秀吉による全国の統一事業や、朝鮮への出兵などの対外関係をとりえ、近世社会の基礎がつけられていったことを理解する。 ○海外から南蛮文化などが取り入れられる一方で、武将や豪商の気風や経済力を背景とした豪壮・華麗な文化が生み出されたことに気づく。</p>	<p>○織田信長・豊臣秀吉による統一事業とその当時の対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などを基に、さまざまな資料から歴史に関する様々な情報を調べまとめ、近世社会の基礎がつけられたことを理解している。</p>	<p>○統一政権までの諸政策の目的などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、中世社会から近世社会への変化の様子や、日本の政治や文化に与えた影響などについて多面的・多角的に考察し、表現している。</p>	<p>○信長・秀吉による統一事業により、近世社会の基礎がつけられていったことに着目して、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>
<p>第4章 3節 幕藩体制の確立と鎖国</p>	<p>5</p>	<p>○江戸幕府の成立と大名統制、鎖国政策と鎖国下の対外関係、身分制度の確立と農村の様子に着目し、幕府の政治の特色について考える。 ○江戸幕府により、幕府と藩による支配が確立したことを理解する。</p>	<p>○江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に、さまざまな資料から歴史に関する様々な情報を調べまとめ、幕府と藩による支配が確立したことを理解している。</p>	<p>○統一政権までの諸政策の目的などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、江戸幕府により全国を支配する仕組みが作られ、都市や農村における生活が変化したことや、安定した社会が構築されたことなどについて多面的・多角的に考察し、表現している。</p>	<p>○江戸幕府の成立と、幕藩体制による支配の確立について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>
<p>第4章 4節 経済の成長と幕政の改革</p>	<p>6</p>	<p>○産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりに着目し、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解する。 ○貨幣経済の広まりや百姓一揆などの農村の変化、江戸幕府の政治改革について理解し、新しい学問・思想の動きに気づく。</p>	<p>○産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりや、社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどを基に、さまざまな資料から歴史に関する様々な情報を調べまとめ、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたこと、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解している。</p>	<p>○産業の発達と文化の担い手の変化や、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、都市を中心とした経済が形成されていく中で、日本の文化の空間的な広がりが生み出され、それを背景として各地方の生活文化が生まれたことや、生産技術の向上や交通の整備と町人文化の特徴、貨幣経済が農村に広がる中で経済的な格差が生み出され、それを背景として百姓一揆が起こったことや、社会や経済の変化への対応としてのさまざまな改革の展開などについて多面的・多角的に考察し、表現している。</p>	<p>○産業の発達、教育の普及と文化の広がり、農村の変化、江戸幕府の政治改革など、日本の近世社会の発展と変化について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>